

日間も荒れ狂い、燃料油を積んだ難破船をジョンソン環礁の珊瑚礁に衝突させてしまう危険が迫っていました。そうすると、石油流出という環境の大破壊をもたらすことになります。ホケッツを救出すると同時に、船がジョンソン環礁に近づくのを防がなければならない……一刻を争う時間との闘いになりました。ついに米国沿岸警備隊の飛行機が船の位置をつきとめ、甲板にいるホケッツを発見したのです。隊員たちは安全を確保できるぎりぎりの低空飛行をして、食べ物を犬に投げ与えました。

American Quest号は、今度は米国沿岸警備隊にチャーターされて出航しました。Insiko 1970号に着くと隊員たちは船に乗り込み古タイヤの山に隠れていたホケッツを捜し出しました。危機的状況と限られた時間の中で、1人の隊員が犬をしっかりと抱いてタグボートに乗せることに成功し、難破船を曳航したボートはハワイへと行って行ったのです。到着するとすぐ動物検疫所で120日間「法定隔離」されるはずのホケッツを出迎えようと、港で待ち構えていた多数の新聞記者とカメラマンの前に、赤いレイをかけた彼女が姿を見せました。ペットフード製造会社アイムスは、その小さくて勇敢な犬に一生分の食べ物を寄付しました。検疫期間が終わると、Insiko 1970号船長の友人たちが彼女の世話をしてくれるはずで——ご主人の許に帰れる日ま

で、しばらくの間……

ハワイ・ヒューマン・ソサエティ、HSUS、それに、米国沿岸警備隊は、ホケッツ救出のために18万5000ドルを費やしました。それ以外にかかったInsiko 1970号をハワイまで曳航して帰る費用（10万ドル）の2倍近い金額です。しかし、同情心から惜しみなく寄付してくれた人々のおかげで、これらの組織は犬が無事に戻って来るよりも早く投資金を取り戻せる保証を得たようです。

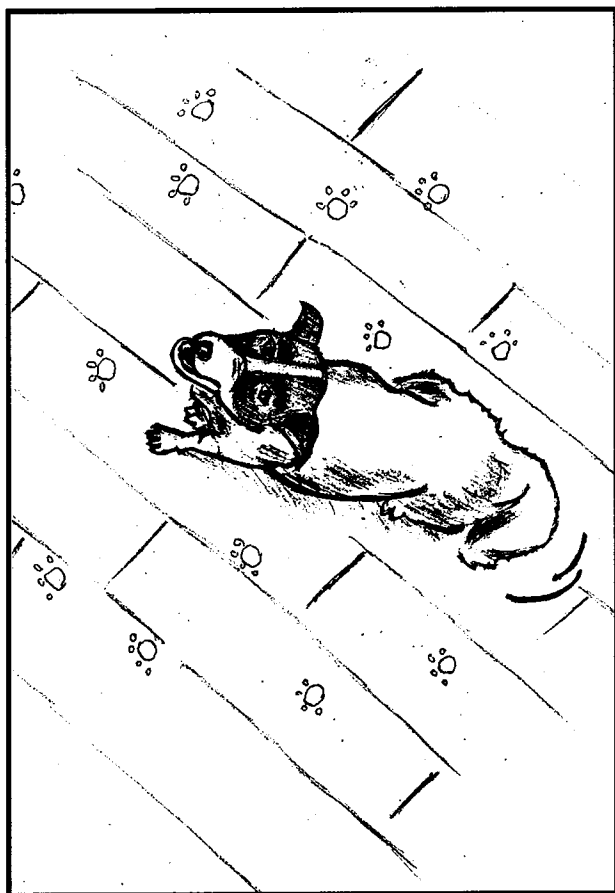
ホケッツの話は、救出を願って多額の寄付を申し出たアメリカ人だけでなく台湾人の心をも動かしました。台北タイムズは論説の中で次のように述べています——「これは、単に愛らしい動物を救ったというだけの話ではなく、それ以上の意味を持つものである。多くの人がすでに気づいている通り、この事件によってアメリカ人の価値観——すなわち、動物も人間も等しく、すべての命あるものを尊重しようという考え——が浮彫りにされたのだ。多額の出費が水泡と歸し、様々な試みが失敗してからもなお、救出活動が続けられたのだから。米国の動物愛好家は、信念のためには口先だけのきれいごとではなくどんな労苦も惜しまないことを身をもって示したと言える。」

当然ながら、すぐさま批判を浴びせる人た

ちもいました。アメリカには飢えた野良犬がいくらでもいるというのに、たった1匹の犬に巨額の金をつぎこむのは皮肉な話ではないかと。しかし、「ホケッツ物語」の中で本当に重要なのは、1匹の犬の命が救われたことだけではなく、一般大衆に備わる「良識のゆとり」とでもいうべきものです。「犬救出のためにつぎこむ金と労力があれば、貧しい人間のために使うべきだ」という意見も説得力を持ちません。それは、人間の命の方が値打ちがあるという前提の上に立った議論ですが、実際には、ある種の人間よりも動物の方が好ましく思える場合も多いのですから。

毎年何百万という犬が人間の餌食になり、その倍近い野良犬が毒殺や殴打、溺死、餓死しているのがアジアの現状です。そこから届くニュースは気をめいらせるものが多い中で、1匹のアジアの犬がどのように幸せな結末を迎えたかという話は、歓迎すべき変化を感じさせる一服の清涼剤と言えるでしょう。

(資料提供：ANIMAL PEOPLE、ロイタ一通信社、AP通信社、台北タイムズ)



Hokget's story touched the hearts not only of Americans who donated generously to her rescue but also to Taiwanese. In an editorial the Taipei Times wrote: "This story has more to it than just cuteness. Many were quick to point out the American values highlighted by this incident - the respect attached to all lives, animals and humans alike. After all, this rescue came after multiple rescue attempts, as well as the expenditure of a lot of money. Animal lovers in the US demonstrated that they pay a lot more than lip service to their beliefs."

Of course, critics were quick to point out that it seems ironic for the Americans to spend so much money on one dog when there are many needy and homeless dogs in the US. But the real significance in the Hokget saga is not just that one dog's life was saved, but the ease in conscience felt by the public. The argument that all the money and efforts put into the rescue would have been better spent on needy humans isn't convincing either. The argument presumes that human lives have more value, when animals are often more likeable than some human beings."

While news from Asia, where millions of dogs are tortured each year for human consumption and millions more strays are poisoned, bludgeoned, starved or drowned, is usually so depressing, it came as a welcome change to hear how one Asian dog's story had a happy ending.

Sources: ANIMAL PEOPLE, Reuters, AP, Taipei Times.